

大分建設新聞社

2019年10月2日掲載



ドイツ製新型重機（左）とICTに活用する重機
手がける杵築市山香町の日伸建設工業(株)は、アスファルト工事に力を入れており、2019年1月には、ICT（情報通信技術）を導入し、さらなる高精度で品質の高い舗装工事の提供が可能となっ

た。また、9月にはドイツ製のアスファルトフィニッシャーSUPER1803-3iを購入した。これまでの、一般的なアスファルト工事では、熟練のオペレーターが重機を操作し施工していたが、ICTを導入することにより、3次元設計データを入力したICT建機へTS（トータルステーション）で計算した位置情報を無線で送信して、位置情報および高さ情報を認識させ、ICT建機の作業機を設計通りに自

動制御させることが可能となる。また、従来の国産の重機は、アスファルト施工の最大幅が6mだが、ドイツ製の新しい同重機は、最大施工幅は8mで、工事の工期短縮などの効率化も図られる。

大庭浩司社長は「ここ数年、建設業界は慢性的な人手不足に悩んでいるが、ICT施工を導入することで、人材不足などの問題改善や、新重機の導入により、工期短縮などの成果を得ることができる。新しい技術を取り入れて、高品質な工事を発注者に提供していきたい」と今後の工事への意気込みを話した。

同社では、同新重機でアスファルト施工を行うな

高品質な舗装を提案

ICT建機を導入

日伸建設工業

ど、空港や高速道路の施工員が一丸となり取り組んで現場での活用を視野に、社

（鈴木）